

コーちゃん&オーちゃんもやってくる

コウノトリ感謝祭を開催します



今年のコウノトリ感謝祭は2日間。コウノトリの郷公園の郷公園デーや県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパスのオープンキャンパスと同時開催します。

10月19日(土)、20日(日)

いずれも午前9時～午後3時

(駐車場マルシェは午前10時～)

県立コウノトリの郷公園周辺

▶内容 駐車場マルシェ、田んぼの学校&大鍋、塗り絵缶バッチづくりなど

出店者の情報や変更・中止のお知らせは、随時ウェブサイト「コウノトリと共に生きる豊岡」でお知らせします。

《問合せ》コウノトリ共生課 ☎21-9017



第22回 パリ五輪のエコなええこと

脱炭素を推進するため、身近な環境問題と家庭でできるエコ活動を紹介し
ます。 《問合せ》コウノトリ共生課脱炭素推進室 ☎21-9136

この夏に開催されたパリ五輪・パラリンピックですが、実はたくさんの環境配慮が行われていたことをご存じでしょうか。

二酸化炭素排出量50%削減が目標

今回、大会組織委員会はパリ五輪の目標として、2012年のロンドン大会、2016年のリオ大会と比較して、二酸化炭素排出量を50%削減することを掲げました。

目標達成に向け、会場建設から食事の調達、エネルギーの利用など、大会に関わる全ての活動において対策を打ち出し、二酸化炭素排出量を150万トン未満に抑える目標に設定しました。

選手たちの食事については「フード・ビジョン」という食に関する取組みを策定し、プラスチックの使用を削減することや食品廃棄を制限することなど6つの公約を掲げました。食事は二酸化炭素の排出が少ない野菜を中心とし、食材の80%はフランス産、そのうち25%は会場から250km以内の産地から調達するなど、食品輸送により発生する二酸化炭素の削減にも取り組まれていました。

また、会場へのペットボトルの持込みを禁止し、マイボトルの持参を求めました。会場内には、給水所やソーダファウンテン(清涼飲料水を供給する機械)が設置され、マイボトルまたは再利用可能なカップやガラス瓶で提供されました。

大切なことは、決して快適とは言えないさまざまな環境配慮を選手や観客たちが「ええこと」として受け入れたこと。大会に関わった全ての方々に「エコなええ人たち」という言葉を送りたいです。

NPO法人暮らしのエコをすすめる但馬の会(参考)

「ローカル食材、植物性食品を中心としたパリ2024のグルメ食」

<https://olympics.com/ioc/news/paris-2024-puts-sustainability-on-the-plate>

「競技大会のカーボンフットプリントを50%に」

<https://olympics.com/ja/paris-2024/our-commitments/the-environment/carbon-method>

地域おこし協力隊紹介 ～私と活動と、時々、暮し～

都市部から地方への移住を促進する国の制度「地域おこし協力隊」。個性溢れる隊員自らが活動を紹介しますシリーズ！

《問合せ》地域づくり課 ☎21-9096

vol.41

地域コミュニティの伴走サポート

田中 里佳

福井県高浜町出身。大学卒業後、神戸市で約3年の会社員生活を経て、2023年12月に豊岡市へ移住。一般社団法人ちいきのてに所属し「地域コミュニティ組織の伴走支援」をテーマに活動中。



豊岡市に移住した理由

大学時代に地域づくりやコミュニティの分野を学び、当時から地域に関わる仕事に強い関心がありました。新卒で神戸で働き始めたものの、休職を経験し、その期間に自分に合った働き方と暮らしを模索するようになりました。ちょうどその頃、大阪で開催された移住イベントで豊岡市役所の方と出会い、「地域コミュニティの伴走支援」の協力隊募集があることを知りました。その際、豊岡の地域の魅力に惹かれ、誰かをサポートするという協力隊のミッションが

豊岡での活動

自分にとっての移住を決意し、迷わず豊岡への移住を決意しました。協力隊としての主な活動は「地域コミュニティ組織の伴走支援」です。豊岡市には旧小学校区を基本とする29の地域コミュニティ組織があり、地域振興や防災、福祉などの課題に取り組んでいます。組織がさまざまな事業を進めるなかで、私は「どんな地域にしていきたいか・何をすべきか」を一緒に考えたり、事業に参加させていただいたりしています。また事業実施後の

振り返りでの意見集約から、次の事業へどう生かすかを一緒に悩んで話し合います。

豊岡で暮らし始めて

豊岡での暮らしは「初めての」の連続です。引越してすぐに大雪が降り、初めて自分の運転で雪道を走りました。また、初めて自分でタケノコを調理し、地域の方から「これ美味しいから」と初めて見る野菜をいただくなど、毎日が新しい発見に満ちています。そんな時、親切にアドバイスを示してくれる方々のおかげで、その一つ一つを楽しむことができている。たくさんの方に支えられている豊岡での暮らしに、これからも活動を通して感謝を伝えていきたいです。



▲高橋地区コミュニティで行われた移住者報告会の進行を務めました。

地域おこし協力隊の受入団体を随時募集しています

協力隊員と一緒に地域を元気にしませんか



◀地域おこし協力隊は、都市部からの移住者が地域活性化に取り組む国の制度です。協力隊員は伝統技術の継承やアートなどさまざまな分野で活動しています。

本市では、27人(9月1日時点)の地域おこし協力隊が地域の方と協力して地域を盛り上げるための活動を行っています。

隊員と一緒に地域課題などを解決したいと考えている団体(NPO法人、一般社団法人など)は、以下の二次元コードから申し込んでください。

※申込後、地域課題などの内容を聞き取りし、協力隊員受入れの可否を決定します。

※次回の募集は12月上旬を予定しています。

《問合せ》地域づくり課 ☎21-9096

豊岡市地域おこし協力隊ホームページ▲



－協力隊員の活動例－

- 観光振興・情報発信
- 地域のコミュニティナース
(地域で活動する看護師)
- 伝統技術の継承
- 一次産業の活性化